

没後15年 春日井建展

— 歌に戻り、歌に生きる —



期間：令和元年5月21日(火)～6月30日(日) 10:00～17:00(月曜休館)
文化のみち二葉館 2階展示室 入館料：一般200円 中学生以下無料(各種減免あり)

トークイベント「春日井建を語る」

対談：水原紫苑(歌人)×加藤治郎(歌人) 日時：令和元年6月2日(日)13:30～15:00
会場：文化のみち二葉館 1階大広間 ※入場無料(要入館料) 当日先着順自由席

主催：文化のみち二葉館(名古屋市旧川上貞紋邸)名古屋市東区椿木町3丁目23番地

Tel.Fax 052-936-3836 <https://www.futabakan.jp/>

監修：大塚寅彦(中部短歌会代表) 協力：中部短歌会、井泉短歌会 後援：中部日本歌人会、中日新聞社 協賛：短歌研究社

没後15年 春日井建展

— 歌に戻り、歌に生きる —



愛知県江南市に生まれた春日井建(1938-2004)は、歌人である父・漢と母・政子のもと、幼少時代から短歌に親しみながら育ちました。前衛歌人として知られる塚本邦雄、寺山修司、岡井隆らと活動を共にするなかで、21歳の時に第一歌集『朱青年』(作品社)を刊行し、作家の三島由紀夫が序文を寄せたことでも話題になりました。しかしながら次第に、テレビやラジオ、舞台の脚本などの仕事を多く手掛けるようになり、第二歌集『行け帰ることなく』(深夜叢書社)の刊行を以て歌から離れた。

のちの1979年、父・漢の逝去をきっかけに、歌誌「短歌」(中部短歌会)の編集発行人を引き継ぐこととなり、歌壇に復帰しました。その後、超結社歌人集団「中の会」を発足し、愛知女子短期大学教授や中部日本歌人会委員長に就任するなど、若手の育成と歌壇の推進に尽力します。晩年は、短歌研究賞や遠空賞などを受賞し、病と闘いながらも新たな歌境を拓きました。

没後15年の節目となる今回の展示では、歌壇に戻ってからの後半生に焦点をあて、短歌界への貢献とその足跡について、当館が所蔵するゆかりの資料を中心にをご紹介します。

トークイベント 「春日井建を語る」

作品やその作歌背景、思い出などをお話いただきます。

対 談: 水原紫苑(歌人)×加藤治郎(歌人)

日 時: 令和元年6月2日(日) 13:30~15:00

会 場: 文化のみち二葉館 1階大広間

※ 入場無料(要入館料) 当日先着順自由席

水原 紫苑(みずはら しおん)

1959年、横浜生まれ。春日井建に師事。歌集に「びあんか」「うたうら」「客人」「あかるたへ」「光儀」「えびすとれー」、エッセイに「桜は本当に美しいのか」など。



加藤 治郎(かとう じろう)

1959年、名古屋生まれ。1983年、未来短歌会に入会、岡井隆に師事。毎日歌壇選者。歌集に「サニー・サイド・アップ」(第32回現代歌人協会賞)、「香煙のパラダイス」(第4回寺山修司短歌賞)、「Confusion」など。



主催・お問い合わせ

文化のみち二葉館
【名古屋市旧川上貞奴邸】

名古屋市東区榎木町3-23

TEL & FAX 052-936-3836

<https://www.futabakan.jp/>

※このチラシは、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

「トニエコキっぷ」【一日乗車券】

をご利用でご来館の方は入館料割引— 一般200円→160円



交通のご案内

●名古屋観光ルートバス「文化のみち二葉館」下車

●西/ス(新栄町)下車、徒歩2分

●徒歩バス2号「白鷺」下車、南に徒歩5分

●地下鉄桜通線「高島」下車、2番出口より徒歩10分

●名鉄東山線「志ヶ島」下車、南に徒歩12分

●駐車場に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

